

友愛デイサービスセンターにおける医療的ケアへの取り組み

－誰もが暮らしやすい地域社会へ－

社会福祉法人友愛十字会 友愛デイサービスセンター

荒井 広祐、斧 由紀子

(医療的ケア 地域生活の継続 その人らしい暮らし)

1. 背景

当センターは、既存利用者の加齢・重度化に伴う身体状況の変化等の理由から、様々な課題を抱えながらも、平成19年より医療的ケア（以下、医ケア）に対応した支援を開始した。そして今日、医ケアに対応している事を理由に、当センターでの実習を希望する特別支援学校からの生徒が増加している。

特別支援学校においては、今後も多くの医ケアが必要な生徒が卒業予定であるものの、区内においては医ケアに対応した支援を行える事業所が不足している。

こうした現状を踏まえ、今後、当センターがどのようにサービスを展開すべきか・地域に貢献できる事とは何か。確かな根拠に基づいた研究が必要と判断した。



2. 目的

- ①社会資源として期待される役割を正しく把握し、地域社会に対して高いレベルで貢献し続ける。
- ②今後も増加が見込まれる医ケアの必要な方々とその家族の地域生活を支える為、医ケアに対応している生活介護事業所の認知度を高めると共に、当センターにおける取り組みを外部の支援者や関係者に提言し共有する事で、医ケアに対応する事業所数の拡大を推進する。
- ③医ケアの必要な方々であっても、より一層、安心して生活できる地域社会を目指す。

3. 実践内容

- ①都・区内における重症心身障害児者を取り巻く情報を収集すると共に、関係機関とも連携を重ねながら、現在・未来の地域社会におけるニーズを正しく把握する。
- ②当センターにおける過去の取り組みや現在行っている支援を通して、医ケアの必要な方々を受け入れる意義や課題を明らかとし、これらを法人内外の事例研究発表会等にて発信する。

4. 経過

- ①医ケアに対応する意義や課題を再確認する事にすると共に、世田谷区・特別支援学校等と連携の上、当センターに求められている役割を明確にし、当センターにおける「医ケアの必要な方々を積極的に受け入れていく」という事業方針を、更に強固なものとした。
- ②令和3年9月に開催された法人内事例研究発表会において、同内容を発表した。(特別賞を受賞)



5. 考察と今後の課題

当センターが医ケアの必要な方々の支援を行う経過の中で、利用者を支える関係者等から様々な協力を得ることができた。

医ケアの提供にあたっては、チーム支援として高いレベルでの支援技術・安定的な看護体制・環境整備等必要な事柄が多く、かつそれを厳しい経営状況の中で提供するには様々な困難が存在する。こうした困難の解決には、各事業所の自助努力のみならず、更なる行政の支援拡充をはじめとする法制度の見直しは欠かせない。

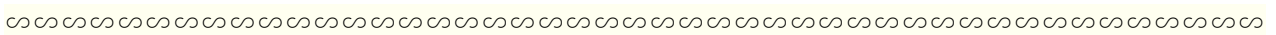
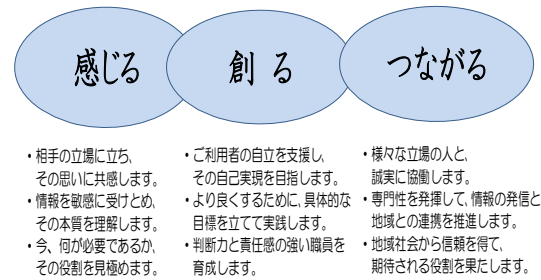
一方で、医ケアの手技自体は生活援助行為であり、然るべき支援体制が整っていれば、決して高いハードルを設けずとも適切に提供できる施設サービスと言える。

また、医ケアに対応できる事業所が増えるということは、すなわち医ケアを要する方とその家族が、今後も住み慣れた地域で無理なく生活していけることに直結する。地域の困難やニーズに則したサービス展開を模索し続けることは、地域社会に支えられている社会資源としての責務ではないだろうか。

今後も当センターでは、医ケアの必要な方々とその家族を始めとした多くの人々の地域生活を支える為、医ケアの必要な方々の積極的な受け入れを継続すると共に、地域の心ある支援者と密に連携しながら相互に高め合い、誰もが暮らしやすい地域社会の実現に向けて貢献していきたい。

こうした取り組みは、まさに「共(に)生(きる)」という友愛十字会の理念を体現するものであり、地域社会そのものの更なる発展に貢献する事であると確信している。

共に生きる



<助言者コメント>

佐々木 静枝 (社会福祉法人世田谷区社会福祉事業団 訪問サービス課看護師特別参与)

医療技術の進歩等を背景として、高齢化の対応、医療的ケアを必要としている人が増え、また、そのニーズも多様化しています。

地域貢献、利用者ニーズ把握、医療的ケア対応する事業所の増加等を推進することを目的とした本報告は、その意義、課題を明らかにし、誰でもが暮らしやすい地域社会の実現に向けて貢献することを目指し事業者の責務を果たしたいとあり、身が引きしめる思いになりました。

医療的ケア対応においては、全国的な課題の多くに、看護師の安定的な採用困難、医行為に対して事故につながる不安、介護職の医療知識・技術の不安、施設環境などが挙げられています。友愛十字会においても同じようなことが課題として挙げられているかと思いますが、「だからできない」とせず、利用者、家族ニーズに応えていくことが事業所の責務として取り組んでいる姿勢に感銘を受けました。

看護師がいれば良いというわけではないと述べていますが、医療的行為は看護師が本来引き受けることだと思っています。しかし、現実には引き受けるだけの要員不足、収支等様々な課題があり解決できていません。多職種の地域資源を有効に活用し、みんなで困難ニーズに対応していけば困難が可能になることもあるかと思います。そのつながり、関係性をいかに作るかがカギなのではないかと気づかされました。

医療的ケア対応の事業所が増えてくれるとともに、地域のトップリーダーとして、今後の活躍を大いに期待しています。